

脳・神経核医学分科会(準備会)セミナー

〈脳賦活検査を実施する際の留意点〉

司会：松田 博史(国立精神神経センター・武蔵病院)
棚田 修二(放医研・高度診断機能ステーション)

1. パラダイムデザイン
宮内 哲(郵政省通信総合研究所)
2. 画像データの収集
定藤 規弘(福井医科大学・高エネルギー医学研究センター)
3. 画像データ処理
蓑島 聡(ミシガン大学・核医学)

日本核医学会総会における分科会活動の一環として、平成9年に脳・神経核医学分科会(準備会)がスタートした。世話人会において本分科会活動の方向性について議論が積み重ねられているが、まず日本核医学会総会の期間中にセミナーを開催し、幅広く参加者を募るとともに今後の活動に関する意見を伺うことになった。本セミナーは、その第1回目として開催するものであり、最近話題になっている脳賦活検査を取り上げて、実際に検査を実施する際の留意点について議論することにした。

神経活動の空間的分布をヒト脳で非侵襲的に観測することは、脳を理解する上で不可欠である。ポジトロン断層画像(PET)や機能的磁気共鳴画像(機能的MRI)による非侵襲的脳機能画像の発達に

より、このような観測が脳賦活検査として可能となり、高次脳機能の解明には欠かせない手段とみなされている。脳賦活検査を実際に行うにあたり、課題設計、データ収集方法、およびデータ解析法は密接に関連しており、確実な知見を得るためには、これらに知悉し、バランスのとれたスタディをデザインする必要がある。今回のシンポジウムでは、3人のシンポジストに、(1)課題設計、(2)データ収集、(3)データ解析、での実質的な留意点について指摘していただき、それらにつき討論する形で進める。さらには、脳賦活検査と、神経科学における他の研究手段との連関についても論究したいと考えているので、興味をお持ちの方々の幅広い参加を歓迎する。